

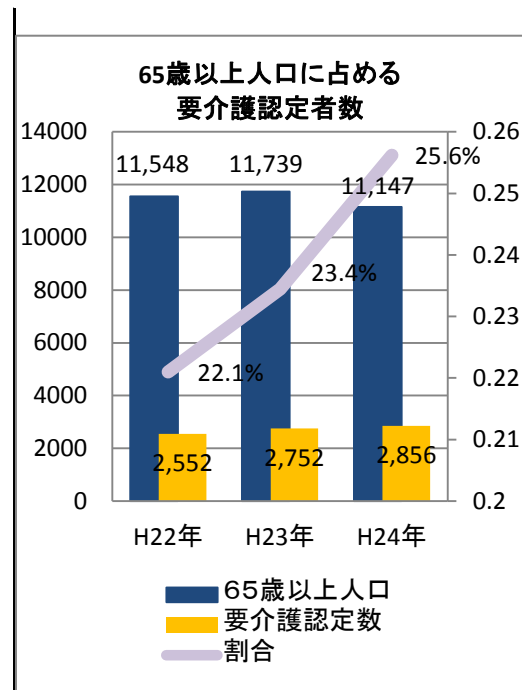
1 重点的に取り組む主な経営課題

めざすべき将来像に対して、今、何が課題となっているのか

課題に対して、3～5年程度でどのような状態をめざし、どういった施策をいかに展開するのか

戦略に即して、26年度において、主にどのような取組・事業を実施するのか

経営課題	めざす成果及び戦略	具体的取組	業績目標	前年度までの実績	市政改革プランとの関連																								
<p>【4 自分らしくいきいきと健康でくらするまちづくりの推進】</p> <p>《めざすべき将来像》 ・すべての区民が共に支え合い、健康で幸せに暮らせるまち（要援護者のうち地域とつながりの持つ人の割合：60%、健康寿命 平成22年度に比し2歳の延伸）</p> <p>《現状》 【平均寿命の比較】(平成22年) 男性：国79.6歳 市77.4歳 区75.9歳 女性：国86.4歳 市85.2歳 区84.4歳 ・浪速区の平均寿命は、全国で男性がワースト3位、女性がワースト7位である。</p> <p>【健康寿命の比較】 男性：国78.17歳 市76.12歳 区73.52歳 女性：国83.16歳 市81.86歳 区80.15歳</p> <p>【結核罹患率】(人口10万あたりの数・平成23年) 国17.7人 市41.5人 区53.8人 ・結核の罹患率は西成区に次いで2番目に高い。</p> <p>【特定健診受診率】 平成24年度実績 浪速区14.5% 大阪市18.6% (平成23年度受診率) 浪速区14.0% 大阪市18.7% ・24区中、特定健診の受診率は最下位</p> <p>【がん検診受診率】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>浪速区</th> <th>大阪市</th> <th>順位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>胃がん</td> <td>3.4%</td> <td>5.4%</td> <td>23位</td> </tr> <tr> <td>大腸がん</td> <td>4.7%</td> <td>9.2%</td> <td>24位</td> </tr> <tr> <td>肺がん</td> <td>3.2%</td> <td>4.5%</td> <td>18位</td> </tr> <tr> <td>子宮がん</td> <td>17.8%</td> <td>21.3%</td> <td>19位</td> </tr> <tr> <td>乳がん</td> <td>8.5%</td> <td>11.8%</td> <td>23位</td> </tr> </tbody> </table> <p>【単身高齢者の割合と要介護者の割合】 ・平成22年の国勢調査において、老年人口に占める高齢単身者の割合を見ると、大阪市29.5%に対し浪速区は46.0%と高い。また要介護認定者も平成22年度末には2,552人だったが平成24年度末には2,856人と増加している。</p>		浪速区	大阪市	順位	胃がん	3.4%	5.4%	23位	大腸がん	4.7%	9.2%	24位	肺がん	3.2%	4.5%	18位	子宮がん	17.8%	21.3%	19位	乳がん	8.5%	11.8%	23位	<p>【4-1 地域に即した保健・福祉の推進】</p> <p>めざす成果</p> <p>《めざす状態》 ・がん検診、特定健診の受診率の向上 ・結核罹患率を減少させる ・日常的に運動をしている区民の増加 ・災害時要援護者登録者数の増</p> <p>《アウトカム》 ・平成27年度までに特定健診の受診率市内ワーストワンの返上 ・平成27年度までに結核罹患率を人口10万人に対し50人以下にする ・平成27年度までに「いきいき百歳体操」に取組むグループの増加(2グループ) ・平成27年度までに災害時要援護者登録者数を3,000人以上</p> <p>戦略</p> <p>・区民が浪速区でいつまでも健康でいきいきと生活できるよう、各種検診・健診の受診率向上に向け、意識の低い中高年齢層を対象に取組みを行う。 ・結核罹患率を減少させるため、ハイリスク結核健診を実施し、結核患者の早期発見、早期治療、結核の感染防止により新規患者の発生を抑える。 ・介護予防に有効な「いきいき百歳体操」を広めるため、地域で活動するリーダーを拡充し、グループの増加を図る。 ・高齢者、障がいなど要援護者の登録を進めるとともに、早期の相談につながり見守れるような地域の関係づくりをすすめる。</p>	<p>【4-1-1 がん検診・特定健診受診率の向上のための啓発事業の実施】 ・特定健診の区役所での実施月に区役所内での啓発活動を実施する。(受診勧奨ビラの配布、庁内放送、SNS(ツイッター・フェイスブック)など、ホームページでの情報発信、モニター広告での周知) ・特定健診の啓発関連の記事を年3回広報誌「なでしこ」に掲載。 ・年1回、区民ギャラリーでの展示。(がん検診・特定健診の受診勧奨他、健康に関する啓発内容を展示) ・地域健康講座(年40回)、地域ふれあい子育て教室等(年10回)、区民まつり(年1回)で、特定健診・がん検診・結核健診の受診勧奨ビラの配布。 ・三師会、関係機関、すこやかパートナー等との連携により健康展の実施。 ・医師等による健康講座の開催。(年4回)</p> <p>[予算額 56千円]</p>	<p>・前年度以上の各種の健診受診率の向上。 地域の関係づくりをすすめる。</p> <p>【撤退基準】 ・各種がん検診、特定健診率の受診率が向上しなければ受診勧奨活動の方法を再構築する。</p>	<p>啓発活動について ・毎月1日を「浪速区健康の日」と設定。 ・特定健診実施月(6月)受診勧奨ビラの配布。 ・特定健診実施月(9月)に区役所1階区民ギャラリーにて「浪速区健康の日」PR、がん検診・特定健診の受診勧奨、浪速区の健康情報等の展示を行う。 ・検診日前にSNS(ツイッター・フェイスブック)などで啓発のための情報発信を行う。(随時実施) ・毎月広報紙「なでしこ」に「健康の日」関連の記事を掲載。</p> <p>健康ライフプロジェクトの開始について ・区長をモデルに生活習慣の改善について医師・保健師・栄養士、浪速スポーツセンターの健康運動指導士からの助言等を広報紙「なでしこ」に掲載し、区民に対し健康づくりについての啓発を行う。(特集記事平成25年3月号、平成25年7月号、平成26年3月号)</p> <p>健康講座の開催について ・8月5日 管理医師による健康講座の実施。 ・8月8日 精神保健福祉講座。 ・9月6日 すこやかリーダー育成講座。 ・11月15日 管理医師による健康講座の実施。 ・3歳児健診時でのがん検診受診勧奨。1回 ・地域健康講座等での受診勧奨等の啓発活動の実施。</p> <p>[24決算額 86千円] [25予算額 87千円]</p>	
	浪速区	大阪市	順位																										
胃がん	3.4%	5.4%	23位																										
大腸がん	4.7%	9.2%	24位																										
肺がん	3.2%	4.5%	18位																										
子宮がん	17.8%	21.3%	19位																										
乳がん	8.5%	11.8%	23位																										
		<p>【4-1-2 ハイリスク結核健診の実施】 ・結核罹患率の高い地区での出張結核健診の実施。</p> <p>[予算額 ー円]</p>	<p>・浪速区内での出張結核健診を年1回以上実施する。</p> <p>【撤退基準】 ・健診受診者が40人以下の場合、事業を再構築する。</p>	<p>ハイリスク結核健診の実施 ・24年度 1か所 42名 ・25年度 2か所 79名</p> <p>[24決算額 ー円] [25予算額 ー円]</p>																									



《要因分析》

- ・特定健診については、医療機関の積極的な利用につながらない。
- ・がん検診については、保健福祉センターでの集団検診の受診率は大阪市の平均以上であるが、医療機関での個別受診が少ない。
- ・日常的な運動習慣により生活機能低下を予防する「いきいき百歳体操」などの普及について、担い手が不足している。
- ・人口転入率は15.0%、転出率が12.5%(どちらも平成24年中)であり、地域に定着する世帯が他区に比べて少ない。
- ・単身世帯率も市内で一番高い。(平成22年で73.5%)
- ・浪速区は、人口異動も多いため、新聞未購読者が多く、広報紙による情報提供が難しい。また、地域コミュニティが希薄であるため人を介した情報提供も難しく、健康づくりの意識啓発や健康情報の提供による健康づくりの取組みの誘導に結びついていない。

《課題》

- ・健康の重要性や健康づくりについての啓発、医療機関と連携した受診率の向上
- ・地域に根ざした健康づくりや介護予防の取組みの推進
- ・だれもが身近な地域で安心して暮らせるよう、地域ぐるみでつながりづくりや介護予防の取組みを進める必要がある。
- ・相談機関や施設などの周知やネットワークづくりを進め、制度等の情報提供、学習機会の提供、権利擁護等を進める必要がある。

<p>【4-1-3 いきいき百歳体操の地域展開】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域開催グループの活動が充実し、継続参加者が増加する為の地域支援を行う。 ・地域展開として、全小学校区に住民主体による通年実施グループを1グループ以上立ち上げるため、いきいき百歳体操連絡会・交流会などを地域組織、関係機関等と協働で開催する。 ・保健福祉センター・老人福祉センターによる拠点実施。(毎週2回 通年) <p>[予算額 ー円]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域展開として全小学校区において、通年実施グループを1グループ以上立ち上げる。 <p>【撤退基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通年実施グループを全小学校区に1グループ以上立ち上げることができなければ、実施形態の再構築を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健福祉センター・老人福祉センターにて実施。(毎週2回 通年継続実施) ・いきいき百歳体操を盛り込んだ「すこやかリーダー育成講座」を充実させ修了者に実施グループへの参加を促した。 ・新たに1小学校区、3グループが立ち上がった。 ・いきいき百歳体操連絡会としてリーダー対象にスキルアップ研修を行った。 <p>[24決算額 ー円] [25予算額 ー円]</p>	
<p>【4-1-4 相談支援機関の周知】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者、障がい者支援に関する相談機関等の周知や情報提供。 ・高齢者虐待、障がい者虐待の減少に向けた啓発と対応。 「障がいのある方の福祉サービスマップ」の提供や虐待防止パンフレットの配布。 <p>[予算額 475千円]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者、障がい者の相談窓口の認知度を50%にする。 <p>【撤退基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者、障がい者の相談窓口の認知度を40%を下回った場合には事業を再構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・包括、プランチの認知度 36%(平成24年3月区民モニター結果) <p>[24決算額 330千円] [25予算額 217千円]</p>	
<p>【4-1-5 相談支援体制の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・虐待を早期に発見し、支援につなげていくネットワークの充実・地域ケア会議等への参加。 定例地域ケア会議 年4回 随時地域ケア会議 随時 浪速区地域自立支援協議会の開催 (年5回以上) 障がい者・高齢者虐待防止連絡会議の開催 (年1回以上) アクションプラン推進委員会の開催 (年1回) <p>[予算額 ー円]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・見守り活動取組み地域の増加。(2地域→10地域) <p>【撤退基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域見守り活動に向けて新たに5地域において担い手づくりに着手されなければ事業実施形態を再構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2地域で見守り活動を実施 <p>[24決算額 ー円] [25予算額 ー円]</p>	改革1-(2)-イ
<p>【4-1-6 災害時要援護者の実態把握による地域見守り活動サポート事業】【1-4-6の再掲】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浪速区においては地域コミュニティに結びついていない単身高齢者などが多く、災害時等の対応に向けてその実態や意向調査が必要である。(75歳以上の住民 約5,000人の意向調査を実施。) ・高齢者の意向調査を経て地域の見守りにつなげ災害時に有効に機能する関係づくりを行うと共に、手上げ方式による本人同意のうえ、区における災害時要援護者名簿を作成する。 <p>[予算額 11,122千円]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時要援護者名簿登載の同意。(平成25、26年度の2か年で3,000人以上) <p>【撤退基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2か年の災害時要援護者名簿登載の同意が2,000人に満たない場合は、事業を再構築する。 	<p>平成25年度中の登載者数 約1,400人</p> <p>[24決算額 ー円] [25予算額 10,858千円]</p>	

《めざすべき将来像》
 ・「人権が尊重されるまち」と実感できる区民を増やすとともに、差別や偏見のない人権尊重の区をめざす。

《現状》
 ・平成24年度市政モニターアンケート「人権行政について」
 (設問)「人権への関心の度合い」について
 「関心がある」と「少し関心がある」を加えたもの 80.7%
 (設問)「人権尊重のまち」について
 「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を加えたもの 56.6%
 ・平成24年度、浪速区内において差別事象は、依然発生している。

《要因分析》
 ・地域の行事や行政の取り組み等に関心の薄い転出入者や若者の占める割合が高い。

《課題》
 ・上記の報告書では、様々な課題が「これからの取り組みの課題」として指摘されている。
 ・近年、いじめや児童虐待、高齢者虐待、ドメスティック・バイオレンス(DV)、セクシャルマイノリティなど、人権問題は多様化、複雑化していることも踏まえ、あらゆる世代にさまざまなテーマ・手法で誰もが参加しやすく、人権を身近なもの感じられ、生活の場で行動に結びつくような人権啓発活動を推進する必要がある。

【4-2 人権尊重のまちづくり】

めざす成果

《めざす状態》
 ・区民の人権啓発活動への参加を通じて、人権に関する高い意識や関心を持つ区民を増やす。

《アウトカム》
 ・人権啓発事業において、参加者アンケートを行い、平成28年度までに、「継続して人権啓発事業に参加したい」と回答する区民の割合75パーセントをめざす。
 (平成24年度70.3%)

戦 略

・区人権啓発推進協議会や人権啓発推進員浪速区連絡会、近隣区等と連携し、地域に密着した中学校区での学習会、若者が集まる商業施設での街頭啓発、時間の制約が少ないパネル展や著名人による講演会の実施等、さまざまな手法で参加しやすい人権啓発活動を推進する。

【4-2-1 人権啓発推進事業】

・人権尊重の意識の向上をめざして、区民対象に街頭啓発・講演会・イベント等多様な手法により、人権啓発の取り組みを推進する。

- ・浪速区における人権啓発事業の実施。
- ・街頭啓発：憲法週間(5月)、人権週間(12月)
- ・区人権啓発推進員連絡会研修会(2回)
- ・落書き一掃運動(1回)
- ・関係行政機関等 人権問題研修会(1回)
- ・人権を考える区民のつどい(1回)
- ・中学校区地域ふれあいセミナー(3回)

・浪速・西・港・大正4区合同事業の実施。
 ・地域人権展(12月)
 ・人・愛・ふれあいプラザ(2回)

[予算額 2,597千円]

・人権啓発事業において、参加者アンケートを行い、「事業に参加して人権意識が高まったと思う」と回答する区民が平成26年度に70%をめざす。

【撤退基準】
 ・人権啓発事業において、参加者アンケートを行い、「事業に参加して人権意識が高まったと思う」と回答する区民が50%を越えなければ事業を再構築する。

・人権啓発推進員浪速区連絡会全体会・研修会(平成25年6月)
 ・落書き一掃運動(平成25年9月)
 ・浪速区関係行政機関人権問題研修会(平成25年9月)
 ・中学校区地域ふれあいセミナー(平成26年2月)
 ・地域人権展(平成25年12月)
 ・人・愛・ふれあいプラザ(平成25年12月、平成26年2月)
 ・人権を考える区民のつどい(平成26年1月)

[24決算額 2,165千円]
 [25予算額 2,886千円]